

◆ほ乳力の弱い子牛は適量の母乳を与えて観察

子牛が無事生まれたとして、今度はうまく母乳を飲めるかどうかが問題になります。1時間以内に起立し、自分で乳を飲む場合はよいのですが、そうでない場合は畜主が母牛のところへ連れて行ってほ乳させるか、母牛から乳を搾って飲ませなければなりません。

初乳の一日の必要量は体重の1割といわれていますが、ほ乳する力のない子牛に強制的に飲ませる場合は、500ml程度を与え、ようすを見るのがよいと思います。このようにして子牛が元気にほ乳するようになればよいのですが、そうでない場合は獣医師の指導および治療が必要となります。

このような虚弱な子牛が生まれる原因として、最近遺伝的な要因もあると言われており、これからは丈夫な子牛を生産するのにも獣医師や授精師のアドバイスを聞き、種雄牛や母牛の遺伝的素質を十分研究して種付けを行う必要があります。